

とちぎの道路・交通ビジョン 3.0

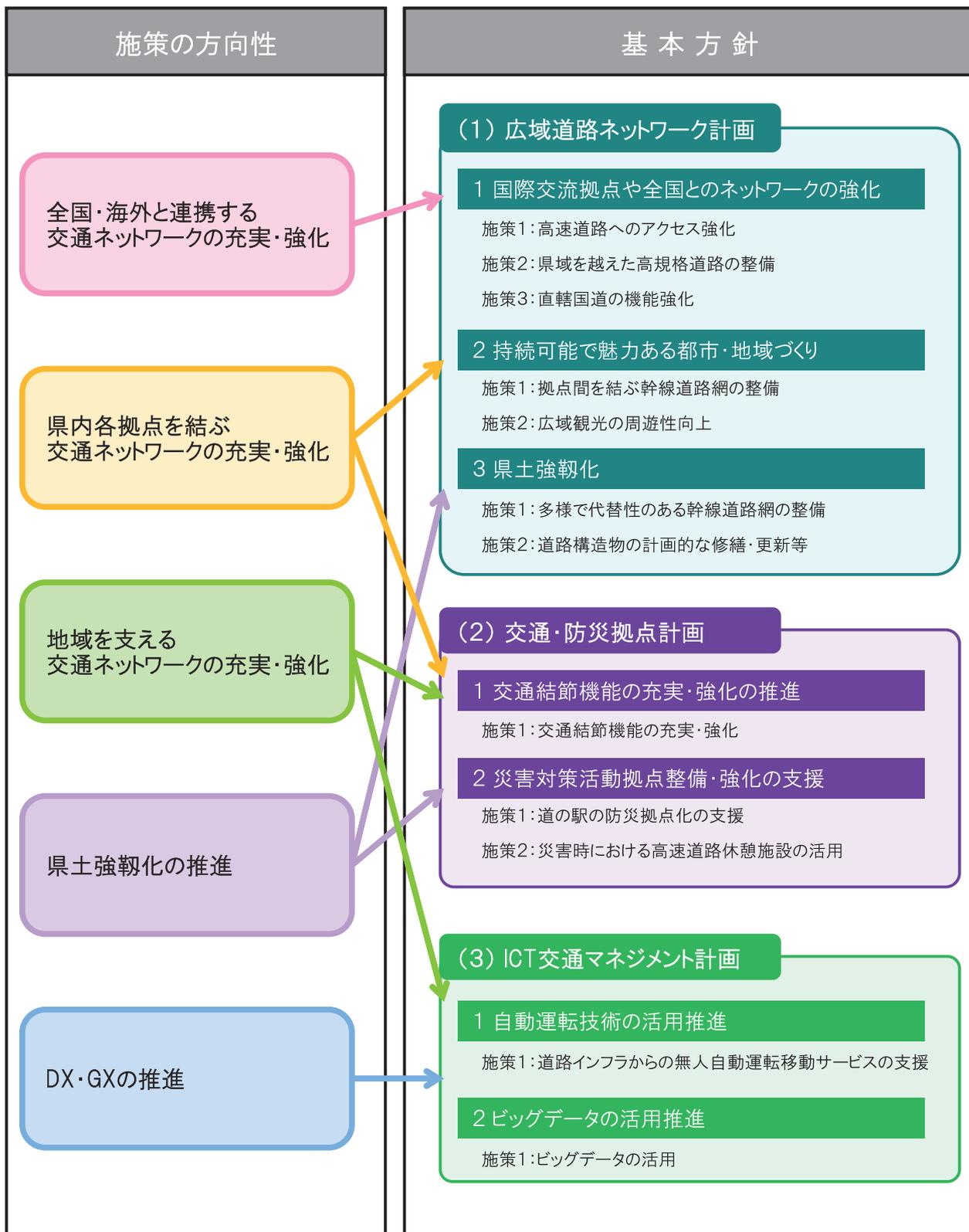
III

栃木県広域道路交通計画



# 1 基本方針

広域的な道路に関する今後の方向性について、とちぎの道路・交通ビジョンで定めた施策の方向性に基づき、「広域道路ネットワーク」、「交通・防災拠点」、「ICT交通マネジメント」の3つの視点から、基本方針を以下のとおり定め、各種施策を推進します。



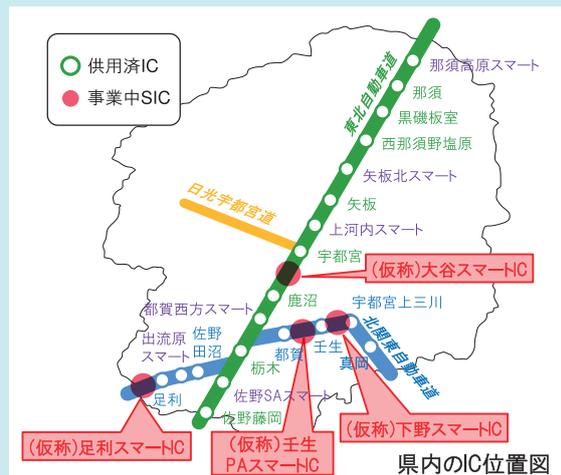
## 2 基本方針に基づく主な具体施策

### (1) 広域道路ネットワーク計画

#### 1 国際交流拠点や全国とのネットワークの強化

##### 施策1 高速道路へのアクセス強化

栃木県の骨格を形成し、地域活性化や物流支援、救急搬送時の移動時間の短縮など高速道路が持つ多様な機能を発揮させるため、スマートICの新規整備及び高速道路ICにアクセスする道路の強化など、高速道路へのアクセス性の向上を図ります。



平均インター間距離の比較	整備前	整備後【事業中】	参考
東北自動車道	8.9	8.2	埼玉県7.2
北関東自動車道	9.0	6.5	群馬県4.7、茨城県7.4

事業中スマートIC
(仮称)大谷スマートIC
(仮称)下野スマートIC
(仮称)足利スマートIC
(仮称)壬生PAスマートIC



国道293号/栃木市  
(都賀西方スマートICアクセス道路)

##### 施策2 県域を越えた高規格道路の整備

本県の高規格道路は「茨城西部・宇都宮広域連絡道路」、「常総・宇都宮東部連絡道路」、「日光宇都宮道路」及び「栃木西部・会津南道路」の4路線が指定されています。本県産業の競争力強化と成長促進により地域経済の活性化を図るため、バイパスや現道拡幅、交差点の立体化等の整備を推進します。

このほか、高規格道路の空白域となっている地域においては、県内外との交流促進や連携強化を図るため、構想路線である「(仮)つくば・八溝縦貫・白河道路」及び「(仮)北関東北部横断道路」などの実現に向けた取組を推進します。



茨城西部・宇都宮広域連絡道路  
(国道119号/宇都宮環状北道路)



栃木西部・会津南道路  
(国道121号/日光川治防災)



資料：国土交通省  
「関東ブロック新広域道路交通計画」より作成  
(仮)つくば・八溝縦貫・白河道路  
(仮)北関東北部横断道路

##### 施策3 直轄国道の機能強化

本県の広域道路網の骨格を形成し、重要物流道路にも指定されている国道4号や新4号国道、国道50号といった直轄国道については、交通渋滞の緩和、交通安全の確保及び拠点へのアクセス向上を目的としたバイパス整備や現道拡幅、交差点の計画的な立体化を促進します。



国道4号 西那須野道路



国道4号 矢板大田原バイパス

## 2 持続可能で魅力ある都市・地域づくり

### 施策1 拠点間を結ぶ幹線道路網の整備

県内各地の自然・歴史・文化・食といった多様で魅力的な地域資源を結び、地域間の交流・連携を促進するため、拠点間を結ぶ幹線道路網の整備を推進します。



国道400号/那須塩原市下塩原BP



都市計画道路3・3・3号小山栃木都賀線/栃木市平柳

### 施策2 広域観光の周遊性向上

円滑で快適な移動を確保し、広域観光の周遊性向上を図るため、県内外の観光資源を連携する幹線道路の整備や観光地の渋滞対策の強化等を推進します。



国道119号/日光市

日光渋滞サイト

気になることを押してね!

- LIVEカメラ
- 駐車場情報
- 渋滞予測
- 渋滞状況

渋滞状況の発信

栃木県

LIVE 明智平付近ライブカメラ

ライブカメラ配信

渋滞対策(国道120号外/日光市)

## 3 県土強靱化

### 施策1 多様で代替性のある幹線道路網の整備

災害時の円滑な避難・救助活動や支援物資の輸送等に必要ルートを確認するため、重要物流道路や緊急輸送道路等の整備、道路防災対策等を計画的に推進します。



重要物流道路・道路拡幅  
(国道400号/那須塩原市西赤田)



緊急輸送道路・道路改築  
(国道408号/宇都宮高根沢BP)



緊急輸送道路・道路防災対策  
(国道123号/茂木町)

### 施策2 道路構造物の計画的な修繕・更新等

計画的な修繕・更新のため、5年に一度の周期で点検を実施した上で予防的修繕を行うことにより、構造物の長寿命化を図ります。また、地震発生時の機能確保のため、重要物流道路や緊急輸送道路上の橋梁について耐震化を推進します。



個別設計計画に基づいた  
メンテナンス計画の構築イメージ



橋梁の長寿命化対策  
(県道足利館林線/猿猴橋)



橋梁耐震化  
(県道西小埜真岡線/田野橋)

## 広域道路ネットワーク図

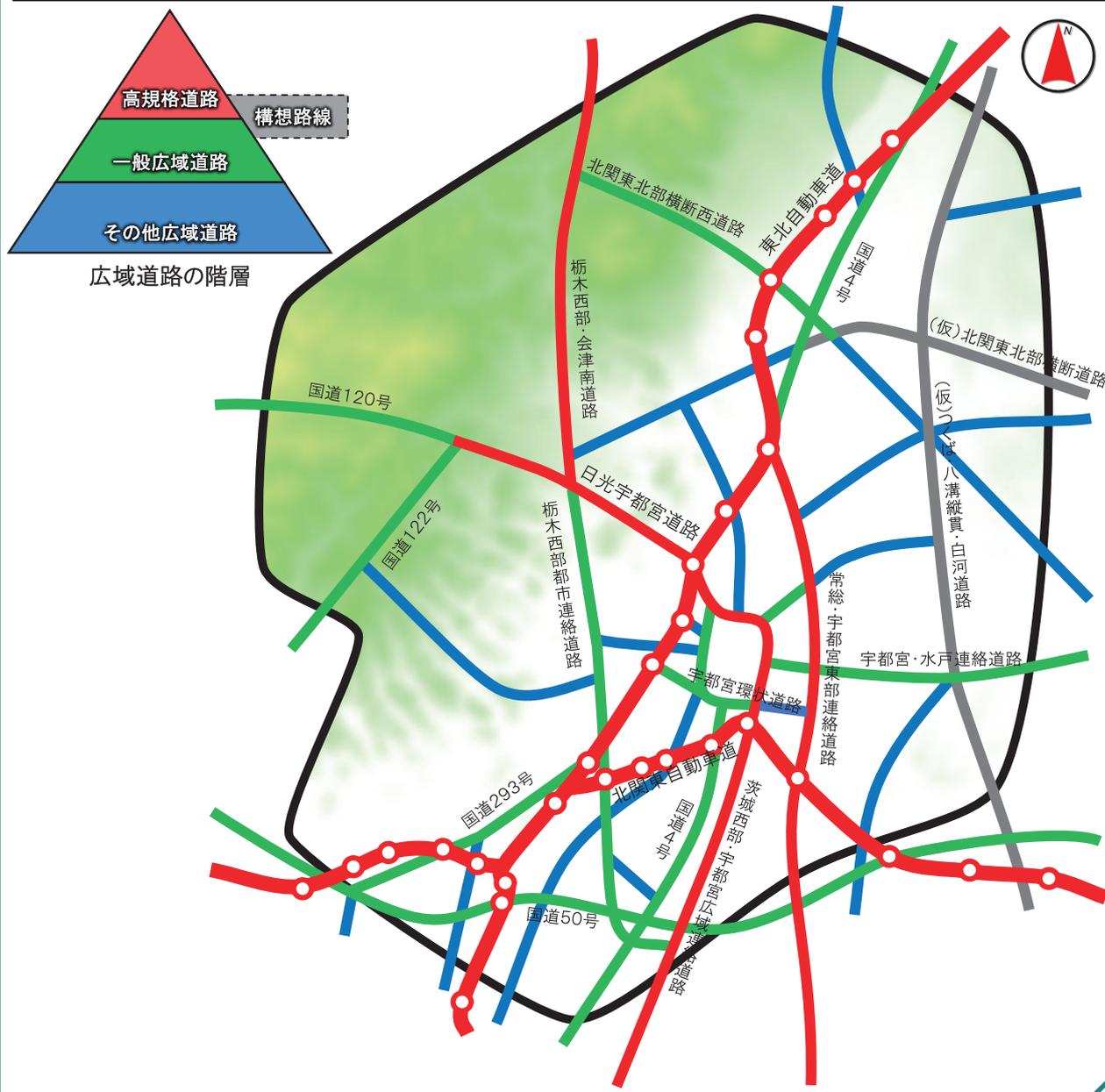
栃木県では、交通基盤等を軸に、人、モノ、情報、産業、文化などが活発に交流し、これらを通して有機的な連携が図られる地域の連なりを「コリドール」と呼び、そのネットワーク形成を進めてきました。

また、県内各地域と県庁を60分以内での連絡を目指す「県土60分構想」に基づき、その実現に向けて広域道路ネットワークの整備を進めてきました。

今後は、平常時・災害時を問わない安定的で効率的な物流ネットワークの確保や空港・港湾等へのアクセス強化など、県内はもとより県域を越えて全国・海外と一層連携するとともに、県土強靱化を推進するため広域道路ネットワークの充実・強化を図ります。

### 21世紀中頃を見据えた、とちぎの広域道路ネットワーク

- **高規格道路**  
高速道路を含め、これと一体もしくは補完して機能する広域的な道路ネットワークを構成し、我が国の経済活動を支えるとともに、頻発・激甚化、広域化する災害からの復旧・復興を図るため、主要な都市や重要な空港・港湾を連絡する道路
- **一般広域道路**  
広域交通の拠点となる都市を効率的かつ効果的に連絡する道路や高規格道路等と重要な空港・港湾等を連絡する道路
- **構想路線**  
高規格道路としての役割が期待されるが、ルート・構造について構想段階の道路
- **その他広域道路**  
高規格道路や一般広域道路と一体的に機能する広域道路

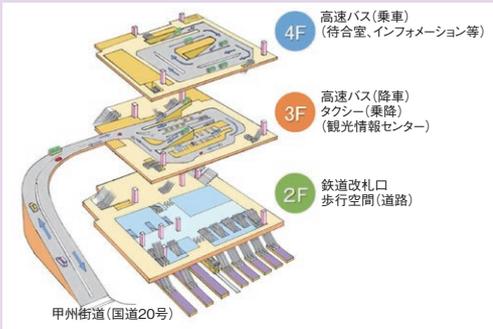


## (2) 交通・防災拠点計画

### 1 交通結節機能の充実・強化の推進

#### 施策1 交通結節機能の充実・強化

高齢者をはじめ、誰もがシームレスに移動できるよう、複数の交通をつなぐ交通結節点の機能を強化し、乗り換え機能の充実や便利で快適な空間の確保を図ります。



交通結節機能の充実・強化  
(バスタ新宿の事例)



シームレスな移動を支える交通環境の整備  
(広島駅構内の事例)

### 2 災害対策活動拠点整備・強化の支援

#### 施策1 道の駅の防災拠点化の支援

道の駅は、道路利用者の快適な休憩を提供する役割に加え、観光地におけるゲートウェイ機能など、地域活性化を推進する拠点としての役割を担っております。災害時における捜索・救助活動や緊急物資等の基地機能、復旧・復興活動の拠点など、地域における広域的な防災拠点として機能を発揮できるよう、市町村や関係機関と連携しながら、防災機能の充実・強化の取組を支援します。



資料：内閣官房「国土強靱化推進本部第17回会合」

道の駅の防災拠点化に向けた取組

#### 対策実施例



資料：内閣官房「第1次国土強靱化実施中期計画」

対策実施例

#### 施策2 災害時における高速道路休憩施設の活用

集結・待機スペースの確保が可能な高速道路SA(サービスエリア)等は、自衛隊や警察、消防など、全国から参集する支援部隊の集結拠点等として活用を促進するため、NEXCO東日本との連携・協力を図ります。

# 交通・防災拠点位置図



## (3) ICT交通マネジメント計画

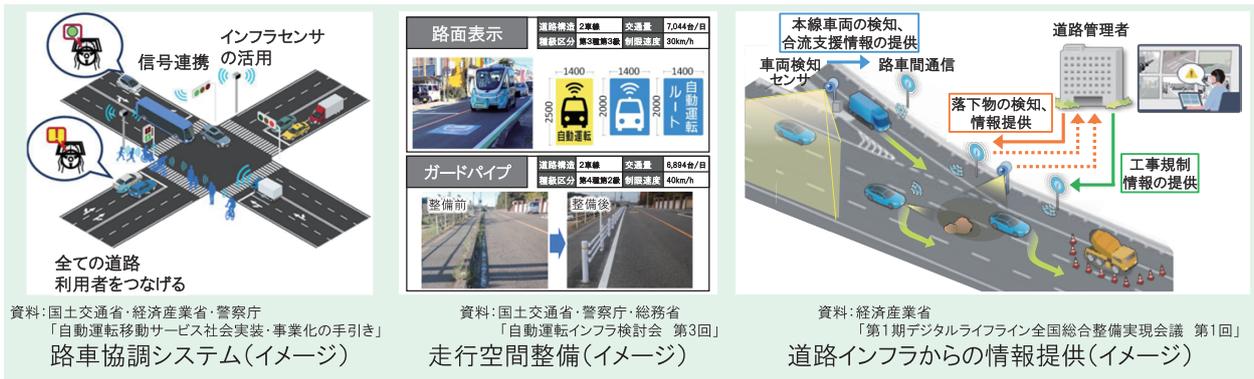
### 1 自動運転技術の活用推進

#### 施策1 道路インフラからの無人自動運転移動サービスの支援

交通分野において、公共交通ネットワークの確保・充実の重要性が高まる一方、運転士不足が深刻化しバス路線の廃止や減便が増加しており、このような地域課題に対応するため、市町・運行事業者等の関係者との共創により、無人自動運転移動サービスの普及・拡大に向けた取組が推進されています。



道路分野においては、自動運転車両に対して走行を支援する路車協調システムや、自動運転車両及び交通全体の安全性向上に資する走行空間整備などにより、道路インフラから自動運転移動サービスの実現を支援します。



### 2 ビッグデータの活用推進

#### 施策1 ビッグデータの活用

これまで渋滞対策の検討や主要渋滞箇所の渋滞緩和を目的として、ETC2.0等のビッグデータを活用するなど、民間企業と連携した実証実験などの取組を行ってきました。

今後は、渋滞対策のみならず交通安全対策や道路整備計画、サービスレベル分析等へのビッグデータの利活用を推進します。

